

ききょう通信 2016. 秋号

Kobe Pharmaceutical University Press Vol.163

[特集]神戸薬科大学学長裁量経費に基づく

教育改革プログラム成果報告

ききょう便り 学長 北河 修治

将来の目標を明確にし、学習意欲を高める1年次の取組み 早期体験学習

研究室探訪 薬品物理化学研究室／医療薬学研究室

神薬ごよみ 〈MANABI白書・Event Report・Information〉

大学生活ニュース

研究活動 受賞報告 生化学研究室 灘中 里美 講師

「薬剤師」を鍛える 生涯研修支援が充実 エクステンションセンター

表紙探訪:総合文化演習

～学生のいる風景～



ききょう祭 2016年10月8日(土)

大学基準協会から適合認定を受けました
神戸薬科大学は、2015年に公益財団法人 大学基準協会による
大学評価並びに認証評価を受けました。
認定期間は、2016年4月1日～2023年3月31日までです。



「健康サポート」を 本学のブランドとして 教育・研究の特色化を進めます

学長の北河です。9月の理事会で再任が認められ、2019年3月まで学長を務めることとなりました。引き続きキャンパス整備を進めながら教育研究の充実を図りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく新カリキュラムも2年次まで進行しました。新カリキュラムでは、モデル・コアカリキュラムに基づく科目以外に、各大学に特徴的な科目を3割程度設けています。本学でも「実用薬学英語」や「語学検定」「薬学英語入門」などの英語に関する授業、薬学にも重要な「医療統計学」や「臨床心理学」などの科目に専任教員を配置して特色化を図っています。就職についても早くから考えることを学生に意識づけするための「キャリアデザイン講座」や、将来の進路も見据えた科目設定を行っています。今後も、3年次以上の学年も含めてカリキュラムを充実していく所存です。

また今年度は、学長裁量経費を利用した教育改革プログラム10件を実施中で、教育の改善を進めています。更に2017年9月の完成を目指して東灘区住吉の校地に地域連携サテライトセンターを建設予定です。そこでは「健康サポート」に関する化粧品やサプリメント等の薬学と関係深い領域も積極的に活動内容に取込んでいく予定です。「健康サポート」を本学のブランドとして教育・研究の幅を広げるとともに、大学の特色としたいと考えています。また、学生の企画も取入れながら地域の医療従事者と連携して活動を行い、地域の中で学生が学ぶ環境を積極的に作り、将来の医療を担う有能な人材を育てたいと考えています。



学長 北河 修治

Vol.163 contents

- | | |
|--|---|
| 1 ききょう便利 学長 北河 修治 | 14 新任のご挨拶
お知らせ 新校舎建築状況について
地域連携サテライトセンターを開設します |
| 2 [特集]神戸薬科大学学長裁量経費に基づく
教育改革プログラム成果報告 | 15 部活動レポート 男女バレーボール部／茶華道部 |
| 5 早期体験学習 | 17 大学生生活ニュース 第2・3回 就職ガイダンス／がん哲学塾
2015年度 授業評価アンケートの結果報告 |
| 7 研究室探訪 薬品物理化学研究室／医療薬学研究室 | 21 研究活動 受賞報告 生化学研究室 灘中 里美 講師 |
| 9 神薬ごよみ
〈MANABI白書〉〈Event Report〉〈Information〉 | 22 表紙探訪 総合文化演習／「薬剤師」を鍛える・エクステンションセンター |

[特集]神戸薬科大学学長裁量経費に基づく

教育改革プログラム成果報告

厚生労働省が提示した「患者のための薬局ビジョン」の一つに「薬剤師による高度薬学管理」があります。がんやHIV、難病などの、副作用も強く、個人のバックグラウンドが作用にも大きく反映する薬を服用している患者に対して、薬剤師のかかわりが強く期待されています。患者の立場に立ち、高度な薬学の知識を統合して医療の現場で活用できる人材を養成するためには、従来の縦割り型の教育に加えて統合教育やアクティブ・ラーニングを授業に積極的に取り入れていく必要があります。そこで、2015年度から学長裁量経費を用いて「教育改革プログラム」を募集し、開始することとしました。学内公募の結果、採択した5件について第1回の公開報告会を2016年6月4日(土)に行いました。患者のニーズに応え、医療現場で活躍する人材を輩出するための教育改革を、この神戸の地から少しずつでも進められたらと願っています。



「開催の趣旨」北河 修治 学長



報告会



「特別講演(神戸薬科大学FD・SD研修会)」
摂南大学薬学部 安原 智久 先生
大学に求められる質保証とパフォーマンス評価
ーディプロマ・ポリシーへの到達を測るー



「閉会の挨拶」中山 尋量 教務部長

教育改革プログラム成果報告

高度な薬学の知識を統合して医療の現場で活用できる 人材の養成を目指す神戸薬科大学発の教育改革

教育改革プログラム成果報告の目的

本学の教育方法の改善を積極的に支援し、地域医療や生涯教育と連携した教育を積極的に取り入れ、本学の教育の特色化、教育の活性化を図るとともに、公開報告会を実施し、学外との連携を図り、内容の充実を目指す。

- 統合教育、新しい教育法の導入による教育の改善
- 生涯教育と連携した学部教育、地域と連携した教育の推進

〈テーマ〉

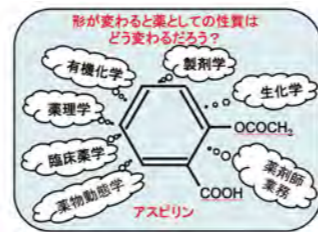
初年次導入教育「薬学入門」における統合型・能動的学習の実践

目的 初年次生の学習意欲を高め、コミュニケーション能力の重要性を認識させる

大学に入学してきた初年次生には、これから大学でどのようなことを学ぶのかという不安や、臨床的なことも早く学びたいという欲求がある。そこで、大学6年間で学んでいく内容に簡単に触れて、薬学の魅力を感じ、学習意欲を高めてもらうために、「薬学入門」のカリキュラムを、有機化学、生化学などの基礎系科目から薬剤師業務などの臨床系科目まで幅広く網羅する分野横断的なものと改革し、実施した。また、内容の理解を促し、薬学人に求められるコミュニケーション能力の重要性を認識してもらうために、アクティブ・ラーニングを取り入れた。

成果 「考えさせる」学習の採用で目的を達成。6年間で学ぶ学習内容の理解も促す

「薬学入門」目的の達成に向けては、特に初年次生が学習したいと思うような方略の作成に注力した。作成した方略は、①異なる分野を専門とする7名の教員によるアスピリンに特化したオムニバス講義 ②アスピリンの添付文書に関するPBL※ ③未知のアスピリン誘導体に関するPBL ④PBLの成果発表会である。PBLについては、初年次生でも取組みやすいものとするために、教員が作成した問題を予習し、同じ問題についてグループで議論するというシステムを考案した。また、未知のアスピリン誘導体をPBLの問題にすることによって「調べる」だけでなく「考えさせる」PBLとした。学生アンケートの結果から、改革された「薬学入門」は「考えさせる」PBLや臨床を感じる方略により、学生にとって満足できる内容であったことが示唆された。また、薬学に対する学習意欲を高め、コミュニケーション能力の重要性を認識させるという当初の目的が達成されたことも示唆された。更に、大学の6年間で学ぶ内容の連係や、分野横断的な学習内容の理解を促したことが明らかになった。



薬理学研究室
プログラム代表者 八巻 耕也 講師

※PBL (Problem-Based Learning) …課題解決型学習

ジグソー法を活用した「薬学英語入門Ⅰ、Ⅱ」の授業改善

目的 高い英語読解力と説明力を習得するグループ学習法の実施

薬学英語入門Ⅰ・Ⅱ(3年次前期・後期開講)は、専門性の高い内容を英語で読みこなす能力と、理解した内容を説明する(アウトプット)能力が求められる高度な授業である。このような能力の育成を目指して、これまでさまざまなグループ学習法を用いた授業を実施してきたが、リーダーの決定に従う集団心理、集団の成果へのただ乗り心理、思考過程よりも結果重視といった否定的側面が問題視されていた。本プログラムでは、これらの否定的側面を回避して、個人の責任性と思考過程を重視するグループ学習法であるジグソー法を取り入れた授業を実施し、その効果をアンケート調査結果から検証した。

成果 ジグソー法を用いたグループ学習により、個人の責任性の認識につながった

薬学英語入門Ⅱの最終日に全クラス合同(269名)でジグソー法を用いたグループ学習を行った後、アンケート調査を実施した(回収率95%)。「ジグソー活動の成果」に関する4つの質問項目(個人の責任性・知的創造・能動的学習態度・積極的な意見交換)において、多くの学生が肯定的にとらえ、授業全体の満足度の増加につながった。しかし、一方で、個人の責任性を特徴とするジグソー法は、コミュニケーション重視のグループ学習と比べて「楽しむ」よりも「不安や焦り」といった負の感情を生じる学生も多いことがわかった。以上の結果を考慮し、学生の学習意欲を向上させるには、グループメンバーとの信頼関係の構築や個人の主体性を受容できるための足場作り、「できる感の育み」や「自尊感情の育成」が必要と考える。



薬学基礎教育センター
プログラム代表者 児玉 典子 講師

基礎と臨床の橋渡し教育

目的 分野別の知識を統合させて「使える知識」にする「橋渡し教育」の構築

薬学教育は、有機化学、生化学、物理化学などの基礎薬学を学んだ後に、薬理学、薬物動態学、医療薬学などの応用薬学を習得する。このように多くの科目を学んで得られた分野別の知識は、おそらく学生の頭の中では、島のように別々に存在していると思われる。異なる分野間での知識をパイプでつないでこそ「使える知識」となる。しかし、現在のカリキュラムにおいては分野間の連携が行われていないのが現状である。本教育改革プログラムでは、問題解決能力を持った薬剤師、ファーマシスト・サイエンティストの養成を目指して「基礎と臨床の橋渡し教育」を構築する。

成果 統合教育プログラムに基づくSGDの実施によって見えた薬学統合学習の可能性

「パーキンソン病治療薬」をテーマに作成した統合教育プログラム用のSGD※資料に基づき、薬学統合学習のトライアルを行った。最初に3分野(臨床薬学・薬理学・有機化学)の基礎的な講義を行った後、開示した課題をグループで取組ませた。課題は3分野の知識を統合して議論することで解決できるものとし、課題解決を容易にするために分子模型と脳のモデルも活用した。SGDの前後に実施した学生アンケートでは、「薬学を勉強する意欲が高まったか?」の問いは、すべてのアンケートで最高点となり、本学習が学生のやる気を育むことが示唆された。また、学習効果においては「薬剤に関する問題を3分野の知識を活用して解いた」「難しかったが、ヒントを含んだ授業や問題に沿って考えることで3分野を結びつけて考えることができた」との声もあった。以上のことから、橋渡し教育においてSGDを組入れた薬学統合学習が可能であり、問題解決能力を持った医療人を養成するには、分野間の垣根を取除いた橋渡し教育が必要であることを痛感した。



薬学総合教育
プログラム代表者 宮田 興子 特別教授
※SGD (Small Group Discussion)

エクステンション事業の展開と学部教育との連携 —薬剤師と薬学生が共に学ぶ教育的効果—

目的 学生の学習意欲の向上と基礎・臨床教育の統合的教育の構築

神戸薬科大学エクステンション事業は、あらゆる職域の薬剤師を対象に豊富な生涯研修の場を提供し、薬剤師としての専門的資質の更なる向上を継続的に支援している。多様なプログラムを展開している生涯研修と学部教育の連携、薬剤師と学生が共に学ぶ共学・共育プログラム(実践薬学、健康食品講座)の実践は、医療現場で薬剤師に求められる資質・能力について学生が理解する良い機会になっている。共学・共育プログラムの実践を通して、学生の学習意欲(モチベーション)の向上を図るとともに、基礎と臨床の統合的教育の構築を目指している。

成果 学生と薬剤師が共に学ぶプログラムは学部教育への学習意欲につながった

学生と薬剤師が共に学ぶことで、お互いの刺激になっている。研修会で薬剤師とのディスカッションや薬剤師の質問を聴くことで、臨床現場で何が問題になっているのかを知ることができ、学生は大学の授業では得られない多様なものの見方や考え、経験からくる豊富な知識を先輩薬剤師から学ぶことができたと感じている。また、最初は単位取得が目的だった学生も、この科目を受講して最先端の医療は非常に進んでいることを知り、常に進歩する医療の知識を身につけ患者の役に立つ薬剤師になるには、まずは今学んでいる大学の授業に真剣に取り組まなければならないと思った、といった感想も聞かれた。共学・共育プログラムを受講することで、学生は臨床現場で薬剤師に求められている資質や能力、医療人としての姿勢を学ぶ良い機会になっている。社会に出て、薬剤師の職能を充分に発揮するためには、大学で学んでいる薬理学や基礎の知識が重要であることを理解し、学習意欲につながっている。また、症例検討を通して、学生は基礎の知識と臨床が結びついていることを理解している。



エクステンションセンター
プログラム代表者 太田 光熙 元教授

がん哲学外来メディカル・カフェ参加による本学学生のがん患者に対する意識変化

目的 がん患者に対する学生の意識変化の調査

がん哲学外来メディカル・カフェとは、順天堂大学医学部病理・腫瘍学講座の樋野興夫教授が提唱する「医療の隙間を埋める」活動である。現在、薬学臨床教育センターでは、2か月に1回メディカル・カフェを開催し、学生もがん患者と対話している。がん患者やそのご家族との対話は、学生にはハードルの高いことであり、最初は何も発言できない状態であるが、参加を重ねることにより、確実に変化が認められている。そこで、学生に対してメディカル・カフェ参加前後にアンケートを実施し、がんおよびがん患者に対する意識変化を調査した。

成果 がん患者に対する理解が深まり、医療人としての自覚や意識変化が認められた

がんに対する印象に対しては、「死の宣告」「多くのものを失う」といったネガティブな項目を選択した学生が参加後に減少する一方、「(がんが)身近なもの」「がんになって初めて気づくことがある」「自分を見つめる機会」「新しい自分に生まれ変わる」などのポジティブな項目は増加した。「がん患者さんは何を心配していると思いますか?」との質問には、「死」「恐怖」「痛み」といった項目を選択した学生が参加後に減少する一方、「治療に関する適切な情報」に関しては大幅に増加し、更には「医療人としても患者さんに適切なアドバイスができるようになる必要がある」との自由記述も認められた。このように、メディカル・カフェへ参加することにより、がんやがん患者に対するイメージが大きく変化し、更には医療人としての自覚や意識変化も認められた。学生のメディカル・カフェへの参加は、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などががんに向き合う人々に対する理解を深め、共に生きる社会づくりに寄与する第一歩になると考えられる。



薬学臨床教育センター
プログラム代表者 横山 郁子 助手

将来の目標を明確にし、学習意欲を高める1年次の取り組み

早期体験学習

薬学を学ぶ明確な目的意識の醸成を図り、医療人としての自覚を早い段階から持つために、薬剤師が活躍する実際の現場を訪問します。訪問前にはSGD (Small Group Discussion)を通じてグループ共通のテーマや、個人の関心テーマを設定し、プロトコルを作成します。訪問後には体験学習後の総括(自己評価、問題点、反省、展望)を行い、発表会に向けて準備を行います。これらを通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を涵養します。

一般目標 (GIO)

医療・福祉の現状と薬剤師を取り巻く環境を理解し、薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために、創業・医薬品供給・医療・福祉の現場などを体験し、将来医療の担い手となる自覚を持つ。

到達目標 (SBOs)

1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞き、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。
2. 開局薬剤師の業務を見聞き、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。

学外で体験学習を行う上で必要な心構えやマナーを学ぶ導入授業を行っています。また、医療人として必要な素養を学ぶためのさまざまな取り組みを行っています。



マナーの手引きより



● 薬学生としてのマナー講座

学生としてはもちろん、医療従事者を志す者に必要な「挨拶・表情」「服装(身だしなみ)」「言葉づかい」「周囲への配慮」など、マナーの基礎を学ぶ。

● 救命救急訓練

1次救命処置を習得。消防署規定の「普通救命コース I (心肺蘇生)3時間コース」+「ケガの手当て(外傷対応)2時間コース」の計5時間を実施。



電氣的除細動を含めた応急手当



ケガの手当

● ハンディキャップ体験

ハンディキャップを持つ方の日常生活を体験して理解することにより、障害者や高齢者の気持ちに配慮し支援できる薬剤師を目指す。



車椅子体験



高齢者体験

● 造血幹細胞移植推進特別講座

高度化する薬剤師の仕事を知る一つとして元患者や移植経験者による治療経験をふまえた講座を開催。



講演会

● 多職種(連携)協働実践

医師や看護師などの医療従事者とともに「チーム医療」の一員として臨床の現場で活躍する薬剤師の役割や、チームで協働する意義を学ぶ。

第1期 主な学習・取り組み内容 2016年4月~7月



少人数のグループに分かれて訪問し、薬剤師の実際の職場や業務を見学
訪問病院: 西神戸医療センター薬剤部

病院訪問

薬剤師としての将来を見据える「病院」訪問
本年度から1年次生全員の訪問が実現

1年次生全員が病院薬剤部を訪問しました。医療現場を体験するとともに、病院薬剤師の業務や、その働き方について学びました。また、希望者は保険調剤薬局も訪問し、病院薬剤師との違いや地域とのつながりを学びました。

発表会・ポスター展示 病院訪問後は、体験した内容についてグループに分かれてSGDを行い、ポスターを作成してクラスで発表。クラス代表は発表会でプレゼンテーションをします。



発表会



ポスター展示

第2期 主な学習・取り組み内容 2016年9月

施設見学

薬剤師が活躍するさまざまな現場を訪問して
更に知見を広げる



見学先: 日本イーライリリー株式会社 西神ラボラトリーズ

医薬品工場を見学して

企業概要をうかがった後、工場見学へ。錠剤の包装やラベルに傷や記入漏れがないか、X線を当てて包装された錠剤の数が正しいかなどを調べているところを見学しました。薬剤師の方が働いている薬品検査室も訪問し、薬品に異物が混入していないかを調べているところも見学しました。企業が薬剤の品質を確保するだけでなく、患者さんが扱いやすいようにパッケージを工夫されていることを知り、患者さんのことを思いやる姿勢に感銘を受けました。また、企業では日常会話程度の英語は必要だと実感。いままで英語はおろそかにしていたので、勉強をする良いきっかけになりました。



1年 信野 直人さん

研究室探訪

物理化学的な技術・手法を駆使し、分子イメージング診断薬、治療薬の創薬研究を行う

薬品物理化学研究室

【スタッフ】向高弘 教授 田中将史 講師 佐野 紘平 講師
【学 生】4年:16名 5年:19名 6年:15名



研究テーマは？

さまざまな物理化学的な技術・手法を駆使し、生命現象、生体および病態の特性を解明するとともに、得られた情報を基に、分子イメージング診断薬、治療薬の創薬研究を行っています。

現在取り組んでいる研究内容は？

分子イメージングは、生物個体内で働く生体分子の機能および動態を、生きている状態でイメージングにより解析できる特徴ある手法であり、医学・薬学を含むライフサイエンス分野を中心に、その将来が大きく期待されています。そこで、核医学イメージング診断薬(放射性医薬品)を中心に、蛍光イメージング診断薬、磁気共鳴イメージング診断薬、更にはこれらを組合わせた複合イメージング診断薬の開発を行い、生命現象の解明、画像診断への応用を目指しています。

研究室の学生は？

一人ひとりが研究テーマを持ち、各自で実験を進めているので、実験時は集中して取り組んでいる様子が見えます。また、人手が必要な実験では、学生が協力し合ってそれぞれの実験を手伝っています。また、休憩時間などは、学年に関係なくワイワイ楽しそうにしています。メリハリがあっていい雰囲気だと思います。

研究活動を通して学生に学んでほしいことは？

分子イメージング研究は、分子イメージング診断薬の設計や合成と、その評価から構成され、有機合成や細胞レベルから、個体レベルの病態の生理や生化学、更には物理化学的、薬理学的および薬剤学的研究が要求されます。従って、研究室での研究において、学生はこのような多くの領域にわたる研究の体験が可能となることから、この体験を通して、創薬にかかわる幅広い知識と見識を備えた、高度な薬学の知識を身につけた薬剤師、並びに教育・研究者を養成したいと考えています。



向高弘 教授



今年は白浜へ。千畳敷にて

ゼミ旅行と甲子園!?

毎年、5年次生を中心に企画されるゼミ旅行があり、さまざまなレクリエーションが盛り込まれた旅行を楽しんでいます。熱狂的な阪神ファンの教員が多いので、毎年甲子園に野球観戦に行くことも(学生は阪神ファンばかりではありません…)

本学では18の研究室に学生が配属され、教員とともに研究に取り組んでいます。研究内容はもちろん、研究室の雰囲気や学生たちが生き生きと学ぶ様子を楽しくお伝えします。

さまざまな疾患の発症・進展のメカニズムの解明や、効率的な診断・治療法の開発となる基礎的研究を行う

医療薬学研究室

【スタッフ】力武 良行 教授 佐々木 直人 准教授 堀部 紗世 助教
【学 生】4年:15名 5年:12名 6年:12名



研究テーマは？

日本人の死因の多くを占めるがんや心疾患から、生活習慣病を基盤とする動脈硬化や認知症、難治性消化器疾患まで、さまざまな疾患を対象に、発症・進展のメカニズムの解明や、効率的な診断・治療法の開発に資する基礎的研究を行っています。

現在取り組んでいる研究内容は？

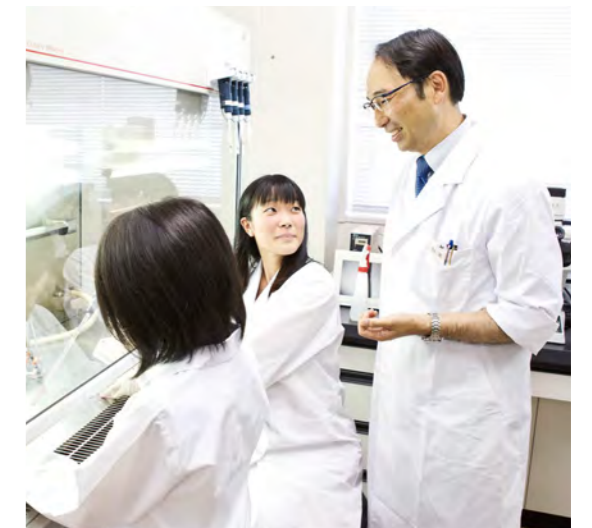
- ①神経機能制御と認知症における神経血管ユニットの役割
脳微小血管と神経細胞の間に存在して両者の相互作用を仲介しているアストロサイト(中枢神経系に存在するグリア細胞の一つ)に着目し、神経機能制御と認知症における役割を解明する研究を行っています。
- ②抗がん剤に対する耐性化機構
がん幹細胞に着目し、ヒト肺がん細胞を用いて、抗がん剤のシスプラチンに対する耐性化機構を解明する研究を行っています。

研究室の学生は？

どの学生も与えられた課題に対して、真摯に、自発的かつ積極的に取り組んでおり、その姿勢には感心しています。

研究活動を通して学生に学んでほしいことは？

研究室では、月一回の研究進捗報告会や英語論文のセミナーなどを開催し、プレゼンテーション能力や問題解決能力の育成に取り組んでいます。学生には、疾患の関連因子・治療標的分子の探索研究や評価系の技術開発について理解するとともに、指導教官・仲間とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、論理的文章を書く能力など、将来薬剤師として活躍するために必要な力を培ってもらいたいと願っています。



力武 良行 教授



高松で「うどん打ち」を体験

学生企画のイベントが満載!

ゼミ旅行、新入生歓迎会、運動会やたこ焼きパーティーなどのイベントを学生自ら企画して実施しています。

神薬ごよみ

キャンパスカレンダー(学年暦)と併せて、学内の今、そして、これからの取組みを3つのコンテンツでお届けします。

MANABI白書

半期における各学年の学習や
実習報告をお伝えします。

Event Report

半期の主な学内イベントを
ご報告します。

Information

今後の行事を中心に、
学内外のニュースをお伝えします。

MANABI白書

2016年度 前期の学習報告

2年次

Student CASP ワークショップを体験して

高校2年の夏から3年の夏までアメリカの高校に留学していました。そこで得た英語力が医療分野でどれだけ生かせるのかを知りたかったこと、先輩や他大学の方、薬剤師や医師と交流できることに興味を引かれて参加しました。最初は論文のどこに重要なことが書かれていて、それをどのように評価すべきかわかりませんでした。ワークシートを参考にしたり、グループの方々に聞いたりしたことで、読めるようになりました。その際、皆さんの知識の豊富さやコミュニケーション能力の高さに驚かされました。論文には知らない医療英単語が出てきて苦労しましたが、本学のe-ラーニングを利用して医療英語を学べば克服できると思います。論文を正しく読んで得た根拠を基に行動する「批判的吟味」のスキルは、将来に向けて学生のうちに身につけておく必要があると思います。



2年 豊田 真世子さん

4年次

キャリアデザイン講座を受講して

進路を考える第一歩になると受講しました。今まで知らなかったことを知ることができ、毎回とても新鮮な気持ちで授業に臨むことができました。友人と授業内容について話すこともあり、そこでディスカッションをしたことが、自分の価値観を知ったり、新たな視点で自分を見つめ直したりするきっかけになりました。進路やキャリアにつながるさまざまなことを教えていただけたので、これからは自分の軸をしっかり持ちながら、自己実現がかなうように、将来のやりたい目標に向かって計画や準備をしていきたいです。視野を広げる上で重要な「情報」を主体的に収集して活用する大切さを学んだことから、まずはインターンシップへの参加から始めたいと考えています。後輩のみなさんには、視野が広がりモチベーションも上がるので、受講されることをおすすめします。



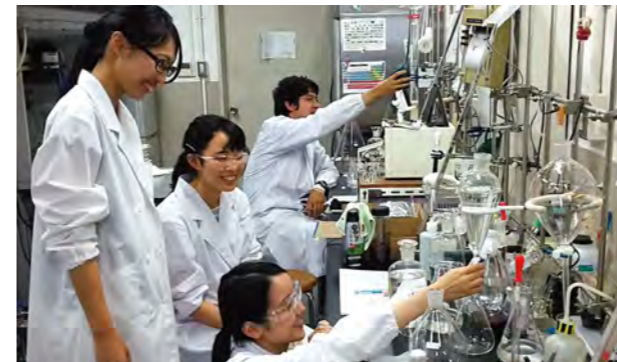
4年 包 玲さん

PICK UP

アクティブ・ラボ 体験報告

「アクティブ・ラボ」は、低学年次生(1~3年)が研究室の実験技術や研究活動を体験する選択科目です。早期から研究や実験に興味を持つことで、研究マインドを高めることを目的に、昨年度からスタートしました。始まったばかりですが、定員を超える応募がある人気の科目となりました。学生が研究や実験に対して強い興味を持っていることがうかがえます。

薬品化学研究室



臨床薬学研究室

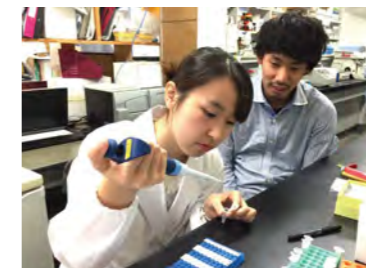


生化学研究室

本年度は、1年次生2名、2年次生5名を受け入れました。3つのグループに分かれ、8月から9月の間に、それぞれのグループが5日間体験しました。

研究室オリジナルHPで
取組みを紹介! ▼

神戸薬科大学 生化学研究室 🔍 検索



ピペットマン(溶液を計り取る器具)で溶液を正確に計量中



組織を顕微鏡で観察するための準備に挑戦

薬学臨床教育センター



2年 寺尾 まりなさん



1年 藤本 恵都子さん



2年 今坂 優希さん



研究室の取組みとして地域連携活動も体験しました。

アクティブ・ラボに参加した理由は?

神戸薬科大学ならではの、恵まれた機会なので参加しました。4年次になって所属する研究室を決めるときの参考にもなるからです。この研究室を選んだ理由は、先生を訪問してうかがったアクティブ・ラボの内容に興味があったから。薬剤師になるための実践的なことが学べると感じたことも理由の一つです。

研究室の雰囲気や印象は?

先生と学生の距離が近く、何でも質問できるアットホームな環境でした。先生方もとてもやさしく、どんな質問にも丁寧に答えてくださり、研究室全体が温かみのある和やかな雰囲気がありました。最初は初対面の方ばかりの中で緊張していましたが、先輩方が明るく迎え入れてくださったおかげで、リラックスして学ぶことができました。

印象に残った子どもたちとの交流

子ども体験スクール*や高大連携で、子どもや高校生に接しました。私が子どもにわかりやすく説明する方法を模索する中、先輩方は、子どもや保護者から想定外のことを聞かれても、子どもが暑さで体調を崩してもあわてることなく対処されていました。先輩方の臨機応変な対応力の高さを実感しました。

*夏休み子どもいろいろ体験スクールの詳細はP.11で紹介しています。

Event Report

5月 MAY 6月 JUNE

救命救急訓練

2016年5月27日(金)と6月3日(金)に、1年次生が本学と連携協定を結ぶ神戸市東灘消防署のご協力のもと、薬剤師として臨床現場で活躍するために必要な心構えの習得と救命救急訓練を行いました。(P.5)

神戸市 民間救急講習団体に認定

新コアカリキュラムである救命処置を実施するため、早期体験学習担当の教員は「救急インストラクター」の資格を取得しています。その実績から、2016年8月29日(月)、東灘消防署長より「民間救急講習団体 (FAST)」として団体認定されました。

民間救急講習団体 (FAST: First Aid Support Team)

一定の要件(指導実績6時間以上の救急インストラクターが3人以上在籍など)を満たした事業所等。認定されると、市民救命士講習を実施し、市民救命士講習の修了証を発行することができます。

教育改革プログラム第1回公開報告会

2016年6月4日(土)に、「患者の立場に立ち、高度な薬学の知識を統合して医療の現場で活用できる人材の養成」を目的に学内公募した教育改革プログラムの公開報告会を行いました。(P.3)

「薬学入門」特別講座

2016年5月31日(火)に、本学卒業生でドイツのロッテンブルグで開局するアッセンハイマー慶子先生を招いて、1年次「薬学入門」で特別講座を開催しました。講義終了後の懇談会では、活発な質疑が行われ、大いに盛り上がりました。



講義
演題は「生涯にわたって役立つオールラウンド学問、薬学」



懇談会

健康サポートセミナー

シニア世代の方を主な対象とした、シニア世代の方が明るく元気に過ごすための「健康サポートセミナー」を開催しています。第1回は2016年6月27日(月)に、第2回は9月5日(月)に開催しました。本セミナーは地域連携サテライトセンター開設後に本格的に実施予定です。

【第1回プログラム】於:東灘区民センター8階会議室1・2

開会の挨拶: 北河 修治 学長

講演1: テーマ「自然と漢方」奥川 斉 臨床特命教授

講演2: テーマ「幸福へのヒントを得る心理学」中島 園美 講師

閉会の挨拶: 岩川 精吾 副学長

地域連携

神戸薬科大学・東灘区役所連携
G7神戸保健大臣会合関連事業



奥川 斉 臨床特命教授



中島 園美 講師

【第2回プログラム】於:東灘区民センター8階会議室1・2

開会の挨拶: 北河 修治 学長

講演1: テーマ「肌と心の健康—いい顔の作り方—」

吉井 隆 非常勤講師(P&G SK II技術顧問)

講演2: テーマ「音楽と癒し」畑 公也 教授

閉会の挨拶: 岩川 精吾 副学長

7月 JULY

「薬科大学と臨床現場を繋ぐセミナー」

薬薬学連携 薬科大学と臨床現場との連携

現場で活躍される薬剤師の方を対象とした「薬科大学と臨床現場を繋ぐセミナー」を開催しています。1回目のシリーズでは「皮膚に適用する製剤(全5回予定)」を取上げ、その第1回を2016年7月2日(土)に、第2回を10月1日(土)に実施しました。

本セミナーは地域連携サテライトセンター開設後に本格的に実施予定です。

【第1回プログラム】於:東灘区民センター8階会議室1

開会の挨拶: 岩川 精吾 副学長

講演1: テーマ「軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性とクリーム剤との混合性の違い—軟膏剤に含まれる界面活性剤をはじめとする添加物の影響—」北河 修治 学長

講演2: テーマ「ステロイド軟膏剤の適正使用に向けたFTUによる服薬指導の実態調査」竹下 治範 講師

懇談会

【第2回プログラム】於:東灘区民センター8階会議室1

開会の挨拶: 北河 修治 学長

講演1: テーマ「皮膚外用剤混合の現状と問題点」東京通信病院薬剤部 大谷 道輝 氏

講演2: テーマ「軟膏剤のレオロジー特性および経皮吸収に及ぼす混合操作自体の影響」北河 修治 学長

閉会の挨拶: 岩川 精吾 副学長

8月 AUGUST

夏休み子どもいろいろ体験スクール

地域連携

2016年8月2日(火)、神戸市東灘区との地域連携協定事業の一環として小学生向けのイベント「夏休み子どもいろいろ体験スクール」を開催しました。小学校3~6年生72名が「薬剤師のお仕事を体験してみよう」というテーマのもと、薬剤師業務である調剤や服薬指導を体験。学生がサポートに加わり、授業で学んだ知識を生かして子どもたちと触れ合いました。

(P.10)



熱心に教員の話聞く子どもたち



聴診器の使い方を指導する学生

8月 AUGUST 10月 OCTOBER

オープンキャンパス

2016年7月30日(土)、31日(日)、8月27日(土)と10月8日(土)にオープンキャンパスを開催しました。体験実習や相談コーナー、進学説明会など、本学の学びや魅力を伝えるさまざまなプログラムを実施。多くの高校生や受験生、保護者の方が参加されました。学生はサポーターとして、来場者を案内したり、相談コーナーで質問に答えたりと、オープンキャンパスを盛り上げてくれました。

7、8月は、気温が35度近い猛暑日でしたが、それを上回る熱気あふれるオープンキャンパスになりました。10月は、ききょう祭と同日開催ということもあって、にぎやかな雰囲気の中で実施され、大盛況のうちに終了しました。



キャンパス見学



受付



体験実習



相談コーナー



ききょう祭

2016年10月8日(土)

開催時の写真は裏表紙に掲載!

6月
4日 教育改革プログラム公開報告会
11日 (全学年)カレッジTOEIC®
18日 (4・5年)単位制インターンシップ企業面接日
27日 第1回健康サポートセミナー

7月
2日 第1回薬科大学と臨床現場を繋ぐセミナー
4日 (5年)病院実習・薬局実習開始(ii期)
11~12日 (6年)卒業研究発表会(実験コース)
13日 前期定期試験(~7/26)
27日 夏季休暇
28日 (5年)第2・3回就職ガイダンス
30・31日 オープンキャンパス

8月
2日 夏休み子どもいろいろ体験スクール
27日 (5年)病院実習・薬局実習報告会(i・ii期)
オープンキャンパス
31日 前期追再試験(~9/8)

9月
5日 (5年)病院実習・薬局実習開始(II期)
第2回健康サポートセミナー
12日 (1年)初期体験臨床実習(~9/16)
13~15日 (1年)早期体験学習第2施設訪問(3日間)
16日 (1年)初期体験臨床実習(全体発表会)
21日 後期開講日
26日 (5年)病院実習・薬局実習開始(iii期)
30日 秋季卒業式

10月
1日 第2回薬科大学と臨床現場を繋ぐセミナー
8日 オープンキャンパス
ききょう祭
22日 (3・4・5年)インターンシップ報告会
桔梗育友会秋季役員会
24日 全学防災避難訓練

11月
5日 桔梗育友会総会/保護者懇談会
(5年)就職相談会(実習中の5年次生対象)
保護者のための就職ガイダンス
13日 地方保護者懇談会(高松、広島、福岡)
19日 (全学年)カレッジTOEIC®
20日 (全学年)キャリアガイダンス
23日 推薦入学試験

Information

2017年度入試スケジュール

学部入学試験	出願締切日	試験日
推薦入学試験(公募制・併願可)	2016年11月11日(金)	2016年11月23日(水・祝)
大学入試センター試験利用入学試験	2017年1月16日(月)	2017年1月14日(土)・15日(日)
一般入学試験(前期)	2017年1月20日(金)	2017年2月4日(土)
一般入学試験(中期)	2017年1月27日(金)	2017年2月11日(土・祝)
一般入学試験(後期)	2017年3月2日(木)	2017年3月10日(金)

出願締切日：消印有効、窓口にて持参の場合は翌日午後5時必着(土・日・祝日除く)

大学院入学試験	出願締切日	試験日
修士課程(薬科学専攻) 一般2次・社会人特別選抜	2017年3月3日(金)	2017年3月11日(土)
博士課程(薬学専攻) 一般2次・社会人特別選抜2次	2017年3月3日(金)	2017年3月11日(土)

出願締切日：郵送の場合は書留便にて締切日必着

2017年度入試 東京・広島会場を増設

神戸薬科大学が地方で受験しやすくなりました。

実施試験：一般入学試験(前期)

【試験日】2017年2月4日(土)

【試験会場】本学、福岡、広島、高松、
姫路、大阪(第1・第2)、名古屋、**東京**

実施試験：一般入学試験(中期)

【試験日】2017年2月11日(土・祝)

【試験会場】本学、大阪、**広島**

詳細は本学ホームページ入試情報サイトをご確認ください

生薬化学研究室から 医薬細胞 生物学研究室へ

医薬細胞生物学研究室
士反 伸和 教授

2016年7月1日より、本研究室は名称を生薬化学研究室から医薬細胞生物学研究室へと変更いたしました。今後は、医薬品として期待される生物活性物質の作用の仕組みや植物で医薬品原料が作られる仕組みなどについて、細胞という観点から研究、また教育をしてまいります。講義などを通して、学生がより深い知識・技術を修得し、社会で活躍していけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

北河 修治 学長の再任を決定

現北河 修治 学長の任期が2017年3月31日で満了することに伴い、学長選考を行った結果、9月29日の理事会において現北河 修治 学長の再任を決定しました。任期：2017年4月1日から2年間

人事・受賞者・寄付金受納

<人事>

- 退職
(依願退職)
主査 嶋田 亮男(事務局施設課) 2016年6月24日付
非常勤職員(薬剤師レジデント) 弘田 尊裕 2016年7月4日付
- 採用
講師 佐野 紘平(薬品物理化学研究室) 2016年8月1日付
准教授 佐々木 直人(医療薬学研究室) 2016年10月1日付
特任助教 高木 晃(薬化学研究室) 2016年10月1日付
- 選任(衛生管理者)
教授 長谷川 潤(衛生化学研究室) 2016年4月7日付
- 任命(学長特命補佐)
特別教授 宮田 興子 2016年5月27日付
- 昇任
教授 士反 伸和(医薬細胞生物学研究室) 2016年7月1日付
- 異動
福田 和美
入試部入試課 主査 → 学生就職部学生就職課 主査 2016年10月1日付
井原 京子
学生就職部学生就職課 事務員 → 入試部入試課 事務員 2016年10月1日付

<受賞・受賞・表彰>

- 灘中 里美 講師 生化学研究室
第20回(2015年度)日本細胞生物学会論文賞 2016年6月16日付
- 奥田 健介 教授 薬化学研究室
第17回国際癌治療増感研究協会協会賞 2016年7月2日付
- 向高 弘 教授 薬品物理化学研究室
第27回日本微量元素学会学術集会優秀演題賞 2016年7月31日付
- 西田 唯香 D4 薬品化学講座
平成28年度有機合成若手セミナー優秀研究発表賞 2016年8月9日付
- 實田 徹 D4 衛生化学講座
2016 Journal for Mass Spectrometry Award 2016年8月24日付
- 三松 舞 5年 生化学研究室
第66回日本薬学会近畿支部大会優秀ポスター賞 2016年10月15日付
- 山内 健生 6年 薬品物理化学研究室
第66回日本薬学会近畿支部大会優秀ポスター賞 2016年10月15日付
- 沼田 千賀子 教授 薬学臨床教育センター
平成28年度兵庫県薬事協会会長表彰 2016年10月19日付
- 河本 由紀子 臨床特命教授 薬学臨床教育センター
平成28年度薬事功労者厚生労働大臣表彰 2016年10月21日付

<寄付金> 米戸 邦夫 様 金一封

新任のご挨拶



医療薬学研究室
佐々木 直人 准教授
2016年10月1日付

2016年10月1日付で、医療薬学研究室の准教授に着任いたしました。私は2000年に神戸大学医学部卒業後、内科臨床研修を行い、神戸大学大学院医学研究科、京都大学再生医科学研究科にて、動脈硬化を基盤とした心血管疾患の研究に従事してまいりました。前任地である神戸大学医学部附属病院および神戸大学大学院医学研究科では、臨床系教室である循環器内科学に所属して医師として診療を行いながら、医学部学生の臨床教育に携わりました。一方で、医療の現場では解決すべき問題が多く残されていることを実感し、研究成果を社会に還元することを目標として医学研究を進めてまいりました。本学では、これまでの医師としての診療・教育・研究の経験を生かし、地域社会の医療あるいは薬学の発展に貢献できる人材の育成に努めてまいりますので、ご支援ご指導のほどよろしくお願申し上げます。



薬品物理化学研究室
佐野 紘平 講師
2016年8月1日付

2016年8月1日付で、薬品物理化学研究室内の講師に着任いたしました。2008年度に京都大学大学院薬学研究科博士課程を修了後、九州大学大学院薬学研究院、京都大学大学院薬学研究科、米国立衛生研究所において分子イメージング学や放射性医薬品学を中心に研究および教育に従事してまいりました。前任地である京都大学医学部附属病院では、放射性薬剤の製造および品質管理に関して臨床研究にも従事し、医薬品開発とその臨床応用とのかかわりについて学んでまいりました。本学では、分子イメージングおよび関連領域の研究活動や講義・実習等を担当いたします。薬学領域の特徴と重要性や、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識・技能・態度を身につけた薬学人として、多様な分野で活躍できる人材を育てる教育を進めたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

お知らせ

新校舎建築状況について

2016年11月現在、内外装の仕上工事を進めています。外部は足場を解体し始めており、外観が少しずつ見えてきました。エレベーターも仮稼働を始めて、竣工まであと一息です。今後は、エントランスまわりの仕上工事など、建物の顔となる部分の工事に取りかかります。12月末にはほとんどの工事を完了させて、2017年1月より各種竣工検査を行う予定です。

スケジュール(予定)	2017年1月31日	2月～3月	4月
	建設会社より建物の引渡し	実験機器等の設置・引越し	全体稼働

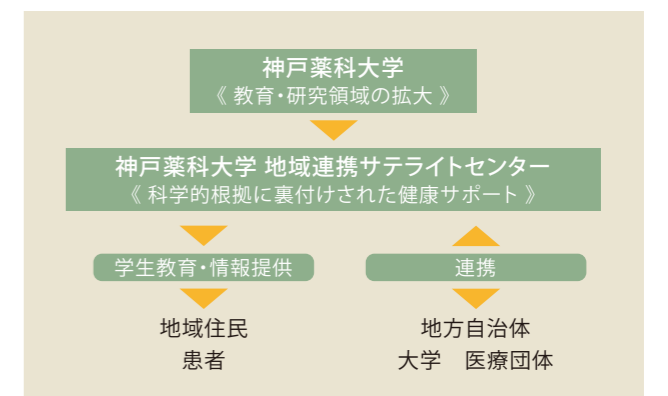


新8号館 外観(2016年11月7日現在)

地域連携サテライトセンターを開設します

2017年9月に、JR住吉駅に近い神戸市東灘区の校有地に「神戸薬科大学地域連携サテライトセンター」を開設予定です。センターの活動は「科学的根拠に裏付けされた健康サポート活動」をモットーに、地域内での学修拠点の形成、地域社会への貢献を目指すとともに、活動を通じて薬剤師職能の拡大、向上を図りたいと考えています。

自治体や地域の医療団体、大学との連携を図り、教育の向上を目指すとともに本学が有する知識を発信・活用できる場として機能させていく予定です。



地域連携のサテライトセンター構築のプロセス(概念図)

充実した学生生活を送り、自らが主体的に考え行動するクラブ活動は、学年を超え多くの学生との交流を深め、豊かな人間性を身につけることができる場です。「チーム医療」の一員としての自覚を養い、コミュニケーション力を磨くことができる有意義な場でもあります。ほとんどの学生が、勉学に励みながら、クラブ活動にも積極的に参加しています。

男女バレーボール部

「出場するすべての大会で優勝」を目標に練習に励んでいます



活動風景

活動内容

顧問 赤井 朋子 准教授
部員 男子14名 女子12名(マネージャー含む)
活動日:毎週火曜日・土曜日、木曜日(隔週)



部長
2年 古賀 瑞希さん

6月と11月に六薬、8月に薬連、3月に医歯薬の試合があり、それらの試合に向けて練習に励んでいます。目標はすべての大会で男女ともに優勝すること。基礎はもちろん、技術面の向上を目指して、初心者も経験者も学年を超えて一丸となって練習しており、部活を通じて集中力やあきらめない精神が身につきました。部員は仲が良く、互いに励まし合い高め合う関係。話しやすく明るい人が多く、個性あふれるメンバーがそろっています。男子も女子も部員大募集中です!

ひとこと

第11回日本医歯薬大会(男子の部)

3月23~25日の3日間にわたって京都府体育館(島津アリーナ京都)にて開催されました。西日本を中心に39の医歯薬系大学が参加した今回、予選リーグを2位で通過!初めて決勝トーナメントに進出しました。

戦績・活動報告

春の六大学薬学部バレーボール大会 男女優勝(2015・2016)
関西薬学部バレーボール連盟大会 男子:3位(2015)/準優勝(2016)
女子3位(2015・2016)
冬の六大学薬学部バレーボール大会 男子:5位・女子:2位(2015)
日本医歯薬バレーボール大会 男子:ベスト16(2015)

茶華道部

社会に出ても生かせる礼儀作法を部活動を通じて学べます



活動風景

活動内容

顧問 多河 典子 講師 部員 30名

活動日:毎週月曜日と金曜日に、先生のご指導のもと、茶道の基本である礼儀や作法を学び、お稽古を行います。



部長
3年 辰巳 愛さん

部員は、まじめでしっかりしていて元気な人が多いです。お稽古以外では楽しくしゃべっていますが、お稽古になると、初心者も経験者も、集中して取り組んでいます。

大学生になり、初めて部活動に参加。後輩ができたことや、部長という役割にも慣れたため、行き届かないことも多いのですが、後輩とお菓子を食べて過ごすこの時間が好きです。社会に出ても部活動で得た経験を生かし、茶道で学んだ礼儀を心がけたいと思います。

ひとこと

ききょう祭でお茶会

1年次生はお運び、2年次生は半東(茶事の手助け)、3年次生はお点前を担当。お越しくださったお客様に茶道の雰囲気を楽しんでいただけるように、お互い協力し合い、お点前をいたしました。

戦績・活動報告

茶道は、お茶の作法のほか、相手への気配りが身につくなど、幅広く礼儀作法を学ぶことができます。季節を感じさせてくれるおいしいお菓子を食べられることも、部活動の楽しみです。

Career Guidance

2016年7月28日に、5年次生を対象とした第2・3回就職ガイダンスを開催しました。薬学生の多様な進路を知り、学生一人ひとりが自分にふさわしい進路を見つけることができるよう、さまざまな角度からサポートしています。

第2回就職ガイダンス

自己分析ワークショップ

「自己分析」とは、自分がどんな人間なのかを探る作業のこと。将来、どのような仕事や働き方をしたいのかを見出すには「自分は何が得意なのか」「どのような人生を送りたいのか」など、自己分析によって自分を知ることから始まります。自分を深く知ることで、将来の選択肢を広げていくことを学びました。



自己分析ワークショップ
講師：株式会社リクルートキャリア 藤田 理恵 氏



ペアでインタビューをし合う「なぜなぜインタビューゲーム」で、どれくらい「自分らしさ」を話せるかを知る

第3回就職ガイダンス

職種研究セミナー

さまざまな業界から人事・採用担当者を講師としてお招きし、在職する業界や職種の業務内容、自分に合う病院や企業の見分け方などについてお話していただきました。自分の興味のある分野や適性に合った職業選択、自身の未来(キャリア)について考える良い機会になりました。



本学
北川 裕之 教授(学生就職部長)



本学
濱口 常男 教授



松下記念病院
薬剤部部長 平田 敦宏 氏



株式会社サエラ
教育研修部課長代理
岩出 賢太郎 氏



第一三共株式会社
人事部人材開発グループ 主査
吉田 浩之 氏



イービーエス株式会社
人事総務センター 人事室 室長補佐
安田 綾子 氏

職種研究セミナーで紹介した職種

- 研修生・薬剤師レジデント
- 研究開発・生産技術・品質管理・製造・MR
- 保険調剤薬局・ドラッグストア薬剤師 ● 病院薬剤師
- CRO・SMO(臨床開発職)

就職ガイダンスに参加して

このようなセミナーは、大学がある関西を中心とした話になるだろうから、志望する地元の病院で働きたい私には得るものはないと考えていました。軽い気持ちで参加しましたが、自己分析ワークショップで話された「自分らしい判断基準で仕事を選ぶ」という言葉に、これまで狭い視野で将来を見ていたことに気づかされました。5年次生というタイミングで「自分らしさとは何か」を考えられたことで、自分に合った仕事や本当にやってみたい仕事を見つけることができそうです。やりたいことが決まっている学生も、何かが変わり、得るものがあります。先入観を持たずに、ぜひ参加してください。



5年 田岡 京将さん

Activity Report

メディカル・カフェ(詳細本文)に参加した本学の学生が主体となり取組む「がん哲学塾」が開講しました。対話を通して、人間性を磨く場としてスタートした活動を紹介します。

がん哲学塾

がん哲学塾開講に寄せて

塾頭 沼田 千賀子
副塾頭 横山 郁子
(薬学臨床教育センター)

医療が高度専門化するに伴い医療現場はますます忙しくなり、患者さんにゆっくり寄り添う時間がなくなっている昨今、その隙間を埋める活動として、2014年より本学で「がん哲学学校 メディカル・カフェ」を開催しています。

このがん患者さんとの対話の場である「メディカル・カフェ」に参加した学生は、がん患者さんの前向きに生きる姿や、人生の目的や役割を真剣に模索している姿に心を動かされ、自身も人生や医療者としての役割を自問し「人間性を向上させることの重要性」に気づきました。そこであえて本気で人生について語り、「人間性を向上させる」場が必要であると、学生自らが企画し「がん哲学塾」を開講する運びとなりました。

これからの不透明な時代を生き抜いていくためには、人生を語り合っ自分の人生観・世界観を確立することは重要であり、それが深い思考を生み出して、違った価値観を受け入れる基盤になっていくと思われます。そのような柔軟な思考と行動力を持った若者がここから巣立ち日本の新しい医療を創造してくれることを期待しています。

がん哲学塾の心得

順天堂大学医学部 病理・腫瘍学教授
樋野興夫先生からの提言

「理念」：3カ条

1. 世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく
2. 俯瞰的に病気の理を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成
3. 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き



第一回がん哲学塾 参加者スナップ

第一回「がん哲学塾」

2016年5月5日(木・祝)開催

樋野先生が参加してくださり、先生を交えて参加者で話し合うスタイルで進行。学生が先生に悩みや質問を問いつけたり、語り合ったりしながら、実りのある時間を共有しました。

<参加者メッセージ>

日ごろとは違うコミュニティの中で、それぞれの思いを伝え合うという機会をいただきました。自分の知らない世界を生きる人のお話が、新鮮かつ刺激的だったというのはもちろんですが、それ以上に、対話を通して相手の価値観や生き方を知り、さまざまな人間性に触れることができた「がん哲学塾」に参加できたことを感謝しています。

田村 優侑さん(神戸大学4年生)

第二回「がん哲学塾」を開催して 2016年7月2日(土)開催

第二回「がん哲学塾」は、樋野興夫先生の著書「いい覚悟で生きる」の一節、「グレーゾーンに対して語るには愛しかない」を朗読し、そこから感じたことや思ったことを参加者で語り合いました。この一節にある「悩みを対話で解消し、その人なりの『いい覚悟』を持てるようにしてあげたい。その思いを支えるのは、間違いなく愛です」という文章が心に残りました。誰かの話や悩みを聞いてあげるといことは愛であり、対話をすることで、お互いに愛を贈り合っているのだと気づかされました。

開催時に沼田先生がおっしゃった「愛の反対は無関心」という言葉と、樋野先生の「悩みを対話で解消し、その思いを支えるのは間違いなく愛です」という言葉につながりを感じた有意義な場となりました。



5年 浅田 聖士さん
(薬学臨床教育センター)

大学生生活ニュース

Student questionnaire

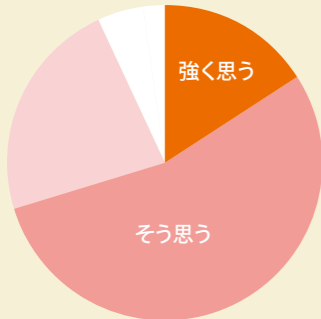
本学では、授業の改善を目的とした学生による「授業評価アンケート」を2年毎に実施しています。「授業評価アンケート」は全学生を対象に行い、評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師です。2015年度は学生の皆さんの意見をより反映させるために質問項目を一新して実施しました。2015年度授業評価アンケートの集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告します。

2015年度 授業評価アンケートの結果報告

調査実施概要	FD委員会	
調査期間 ▶ 2015年	調査対象者 ▶ 学部学生 1,710名	今回の調査は講義終了後のアンケートです。授業改善のための中間アンケートも実施しており(2014年度)、事後評価だけでなくリアルタイムで調査を行い、授業の改善を図っています。
調査対象科目 ▶ すべての授業 実習科目・演習科目を除く	回答者数/履修者数 ▶ 17,786 / 31,529	

調査結果の要約

授業に満足していますか? **71%**



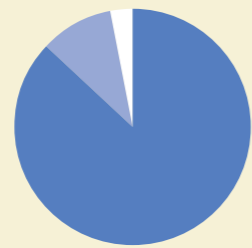
積極的に授業に取組みましたか? **3.8**

授業は理解できましたか? **3.5**

授業はシラバスに沿って進められましたか? **3.8**

教員は授業中の迷惑行為(私語や携帯電話等)に適切な処置を取りましたか? **3.7**

授業の出席率は? **99%**



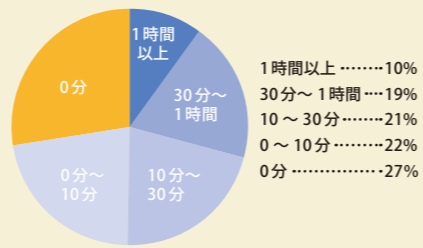
授業の難易度は? **3.7**

授業後に授業内容への興味は増しましたか? **3.6**

教員は授業に情熱をもって臨んでいましたか? **4.1**

教員は学生の質問や意見に適切に対応していましたか? **3.8**

1授業科目に対する予習・復習時間は?



授業中のマナーについて

授業中のマナーについて

- ① 授業中の入室は原則として認めない。
- ② 他の学生の迷惑になるので、私語・悪戯りは厳禁。
- ③ 授業に集中するために、携帯電話・スマートフォンはマナーモードに。
- ④ 特別な理由がある場合を除き、授業の撮影・録音・録音は禁止。
- ⑤ 授業中は帽子を着用しない。
- ⑥ 授業中の飲食は厳禁。

数値は5点を満点とした評価の平均値
5: 強く思う 4: そう思う 3: どちらともいえない
2: そう思わない 1: まったく思わない

「授業中のマナーについて」ポスター
学内や教室に掲示し、
守るべきマナーについて周知徹底を図っています

総合評価

いずれの項目も平均値以上を示しており、学生は肯定的に評価しています。従って、本学では全体的に意義のある講義が行われていると考えています。問題点は、学生の勉強時間が少ないことです。学生が積極的に授業に取組み、理解や興味を深めていることや、教員が学生に適正に対応しているという結果が出ているにもかかわらず勉強時間が少ないのは、座学の授業を聴講するだけで満足し、その内容を発展させて、自分で勉強することができる学生が少ないことを反映しています。これは「自学の必要性を感じていない」「自学の習慣がついていない」「講義をもとに問題提起して調べる能動学習の経験が少なく、勉強方法がわからない」などの原因が考えられます。この問題には「教育改革プログラム」(P.2)の実施によって、学生の能動学習を促す取り組みが始まっています。最後に、本学の教員が提供する授業に関して、学生はおおむね満足しているようです。その中でも特に高い評価を受けた教員にベストティーチャー賞(P.20)を授与しています。

2015年度 ベストティーチャー賞発表

ベストティーチャー賞とは、学生授業評価アンケートに基づき、FD委員会*で審議の結果選出される、当該年度の指導力を学生から評価された教員に与えられるアワードです。2015年度は北川 裕之 教授(授業名:分子生物学I)が受賞されました。

Best Teacher 北川 裕之 教授
(授業名:分子生物学I)



2年 玉垣 絵美さん 2年 金ヶ江 舞香さん

* FD…Faculty Developmentの略称。
教員が授業内容や方法を改善し、
教育の質を向上させるために行う組織的な取組み

玉垣さん 学生が理解できているかを確認しながら進む授業

高校で生物を履修していなかったため、生物の知識はほとんどなかったのですが、先生の授業はわかりやすく、楽しく学ぶことができました。授業中に理解できなかった箇所の質問にうかがったときは、うまく説明できない質問の意図をくみ取って応じてくださったり、授業の内容が難しすぎないかを普段から気にかけてくださったりなど、先生は学生が理解できているかを確かめながら授業を進められていました。今回学んだことはヒトの生命活動の基礎ですが、その根幹を学んだことは、薬の作用機序など、これから多くのことを学ぶ上で有用であったと思います。

金ヶ江さん 苦手意識のあった生物学が、もっと学びたいへ

ポイントを絞った解説や復習を交えるなど、飲み込みが遅い私でもわかりやすい、工夫された授業です。毎回、復習問題のプリントを配布し、その日のうちに回収して必ず添削して下さるので、理解できていない部分を知ることができました。解けなかった問題を重点的に勉強しているので、今後もこのプリントを続けていただきたいです。苦手意識のあった生物学でしたが、生命のミクロな世界に触れて、ヒトの体の中で起こっているさまざまな事象に驚き、もっと学びたいと思うようになりました。4年次に所属する研究室を検討するときには、生物に関する研究室も候補にしたいと思うほど意識が変わりました。

2016年6月～11月 学生の受賞・表彰

おめでとう
ございます



5年 三松 舞さん(生化学研究室)

第66回日本薬学会近畿支部大会
優秀ポスター賞

受賞タイトル……………
「コンドロイチン硫酸の硫酸化異常が
脳神経系に与える影響」

おめでとう
ございます



6年 山内 健生さん(薬品物理化学研究室)

第66回日本薬学会近畿支部大会
優秀ポスター賞

受賞タイトル……………
「全身性アミロイドーシス診断を目指した
放射性ヨウ素標識化合物の体内動態評価」

おめでとう
ございます



博士課程4年 西田 唯香さん(薬品化学講座)

日本薬学会近畿支部及び
有機合成化学協会関西支部

平成28年度有機合成若手セミナー優秀研究発表賞
受賞タイトル……………
「クロロホルムをホスゲン等価体として用いる
ラクタム化およびカルバモイル化反応の開発」

おめでとう
ございます



博士課程4年 寶田 徹さん(衛生化学講座)

21st International Mass Spectrometry Conference
2016 Journal for Mass Spectrometry Award

受賞タイトル……………
「New strategy for analysis of the splicing
regulatory factors using
high-resolution mass spectrometry」

研 究 活 動

受賞報告 生化学研究室 灘中 里美 講師

細胞内で作動する糖鎖合成異常を修復する仕組みの発見

このたび、本学生化学研究室(灘中 里美 講師・北川 裕之 教授)と兵庫県立大学との共同研究の成果をまとめた論文が2016年5月21日付けで第20回(2015年度)日本細胞生物学会論文賞(CSF Award)を受賞しました。

受賞タイトル "TFE3 Is a bHLH-ZIP-type Transcription Factor that Regulates the Mammalian Golgi Stress Response"

私たちが構成する「細胞」に指示を与え「細胞」をやる気にさせる糖鎖

ヒトは約60兆個(37兆個という説もあり)の細胞から構成されていますが、すべての細胞の表面や周りには、たくさんの糖鎖が存在し、健康に生きるために重要な役割を果たしています。糖鎖はいろいろなタンパク質と結合することで細胞に「増えなさい」「神経細胞になりなさい」という指示を与えたり(図1)、糖鎖が存在することによって細胞の周りの雰囲気がよくなり、「さあ、今から増殖するぞ」と細胞をやる気にさせたりする役割を持っています。

さて、注目してほしいのは、糖鎖が緑色・オレンジ色・水色の部分に色分けされていることです(図1)。色の違いは糖鎖の構造の違いを表し、水色の部分は「増えなさい」という命令に、オレンジ色の部分は「神経細胞になりなさい」という命令に関係します。つまり、命令したい内容を持つ糖鎖構造を、状況に応じてつくり分けることで、適切な指示を細胞に与えています。

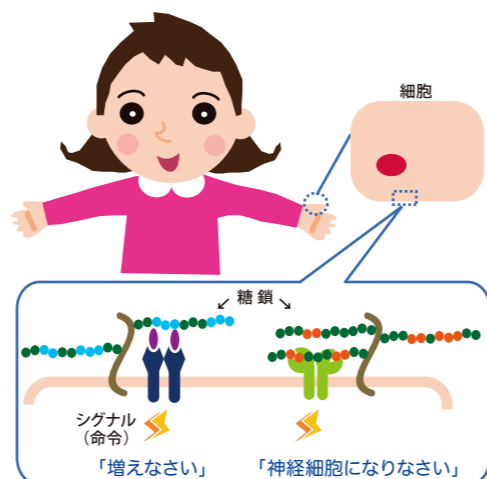


図1 糖鎖のはたらき

「細胞」の正常な働きを妨げる糖鎖の合成異常

もし、状況にそぐわない指示が出たらどうなるでしょう? 例えば、ビルの高層階で火災が発生したとき、本来ならば、下層階の非常口へ向かうよう指示がなされるはずですが、もし、誤って火災現場より上層階へ避難する指示がなされたならば、多くの人は煙にまかれて命の危険にさらされるでしょう。細胞に指示を与える糖鎖が正しくつくれなかったときにも同じことが起こると考えられます。増えなくてもいい細胞が増殖を始めたり、ベストなタイミングで神経細胞にならなかつたり…。このようなことが起こるため、糖鎖の合成異常は、骨の病気や神経疾患など多くの病気の原因になっていると考えられています。

細胞は糖鎖の合成異常を修正する仕組みを生まれながらに持っています

私たち人間と同じように、細胞はいつも快適な環境の中で生きていくわけではありません。ときには、過酷な環境にさらされ、調子が悪くなり、正しい糖鎖がつかれないこともあります(図2)。そんなとき、細胞は泣いてばかりいるわけではありません。細胞内では正しい糖鎖をつくり出そうと対応策が講じられています。

細胞内には糖鎖をつくる工場「ゴルジ体」が存在します(図2)。糖鎖合成に異常が生じると、糖鎖合成工場「ゴルジ体」に連絡が行き、正しい糖鎖がつけられるように製造ラインが調整されます。細胞内では、こんな仕組みが作動しているので、少しばかり過酷な環境に置かれたとしても、すぐに病気にはなりません。

このような糖鎖合成異常を修復する仕組みが細胞に備わっていることを発見したことが受賞の理由です。今後、この新しい仕組みを医学・薬学分野へ貢献できるような研究へと発展させていきたいと考えています。

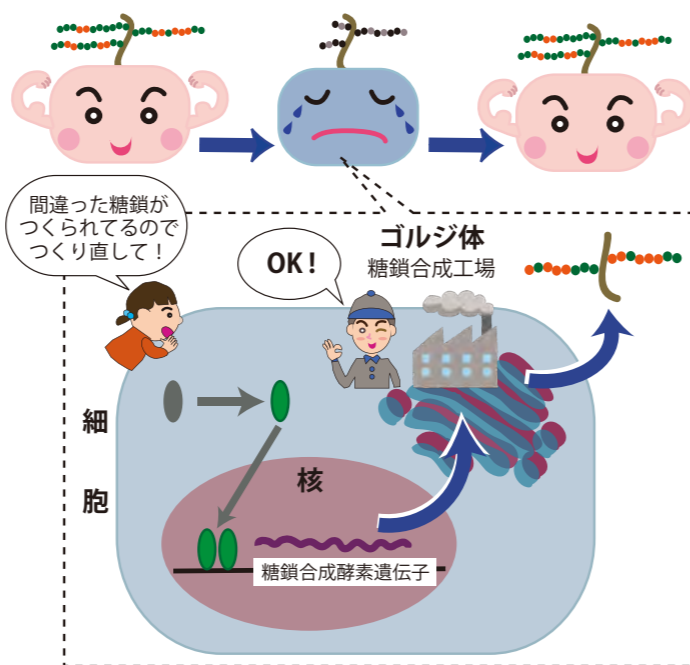


図2 糖鎖に異常が生じると細胞内の糖鎖合成工場であるゴルジ体に連絡が行き、再び正しい糖鎖がつけられるようになる

HYOUSHI TANBOU 表紙探訪

総合文化演習

自ら課題を設定し、考え、解決策を導き出すアクティブ・ラーニングを推進しています

本学は教育課程の編成・実施方針として、教養教育科目、基礎教育科目を充実し、基礎力と幅広い視野の育成に取り組んでいます。また、スモールグループディスカッション形式の授業を通して、科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力及びコミュニケーションスキルの育成にも取り組んでいます。

本学では、目標達成に向けて、教員や学生との議論や対話を重視して進められるアクティブ・ラーニング(能動学習)を積極的に授業に取り入れています。

2年次に通年で配当する「総合文化演習」
主な一般目標(学習終了時に期待される成果・GIO)

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
2. 自らの考え・主張を論理的かつ証拠にもとづいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通して、他者の考え、主張をより深く理解する。



授業を通して、調べ・考え・表現・発表するツールとしてコンピュータリテラシーを身につけます。



チームで調べものやレポートを作成するためにフリーレイアウトの机と、デスクトップおよびノート型のパソコンを自由に利用することができます。

在学生も卒業生も、薬剤師を徹底サポート

「薬剤師」を鍛える

生涯研修支援が充実 エクステンションセンター

神戸薬科大学は2007年6月20日、公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構(CPC)より、西日本の薬系大学として初めて「生涯研修認定制度」としての認証(認証番号G07)を受け、2016年8月31日に2回目の認証更新申請が承認されました。

高齢化社会において、かかりつけ薬剤師・薬局が地域の方々の健康維持・増進を支援する「健康サポート」役となることが求められています。エクステンションセンターでは、薬剤師が医療人の一員として、患者さんのために、より良い医療が提供できるように、薬剤師職能の拡大、向上を目指した研修会を企画し、実施しています。

更に、健康サポートに必要な健康食品に関して、より適切な情報が提供できる薬剤師を養成するために、「健康食品講座」をこれまで以上に充実した内容とするともに、新たに公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構に「特定領域認定制度(P)」への申請準備を進めています。



認証状



「生涯研修プログラム」はWEBから研修申込が可能です

申込には、【神戸薬科大学エクステンションセンター公開講座/セミナー WEB申込システム】への会員登録が必要です。詳細および公開講座の案内や最新情報はエクステンションセンターのホームページをご覧ください。

神戸薬科大学 エクステンション 検索



エクステンションセンター ホームページ